

# Noto PLUS

# 3



広報のと  
第109号

平成26年3月1日発行

発行・能登町 編集・広報情報推進課  
〒927-0492 石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字1-97番地1

TEL: 0768-62-10000  
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>  
Eメール: [info@town.noto.lg.jp](mailto:info@town.noto.lg.jp)



笑顔咲く  
鵜川保育所すみれ組（年長児）の笑顔が開く。  
待ちに待った桃の節句。春の訪れは目前に。



# 千尋の浜草

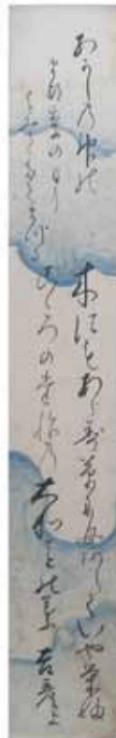
加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門

旅日記③ 中居から能登島へ渡り2泊滞在

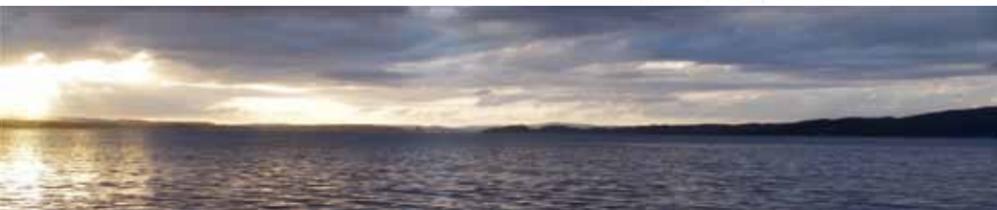
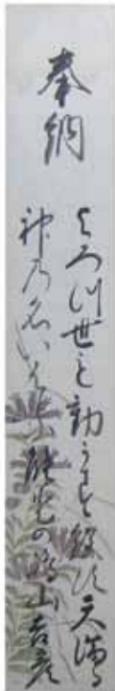


【上図】当時は中居(②)から能登島に渡り、島を縦断した。  
写真は現在の伊夜比咩神社。  
【写真右2枚】能登島・岡木家(元は舟木姓だったという)に残る吉彦直筆の短冊。  
【写真下】吉彦も見たであろう、福浦から屏風崎の景色

あかしの神のまつりによみて奉る  
木にもあらず草にもあらずいや栄ふこころのとねの大和言の葉 吉彦



奉納 よろつ世も動かす絶えず天満る神の名祝う能登の嶋山 吉彦



5月9日、中居(六水町)より舟を頼もうと思っ  
朝から待っているが、漁の合間で頼める舟がな  
なか見つかりません。昼近くにやっと頼むことができ、  
中居日吉神社の「四柳よしみち」と別れ、舟で能登島の  
向田・舟木家に。「四柳よしみち(義道)」とはかねて松  
坂行の約束をしていたようですが、今でいえばドタバ  
ンしたようです。天候の按配もあつてか、向田の「舟木  
勝房」家では2泊宿まりました。

五月雨のはれぬほどよりけふは又  
待たるる舟の うきをこそおもへ

かつて能登島は加賀藩の政治犯を流刑する地でした。  
ここで「定之」という人物に会います。不審な罪を受け  
て浪々の身となりながら、武士道精神にも優れ、風流の  
道にも通じている人物です。『能登島町史』の「能登島  
流刑人一覧」には、この「定之」の名は記載されてなく、  
具体的な姓名や罪状は不明です。

吉彦は舟木家で徹夜まがいに酒を過ぎ遊んだよう  
です。気持ちは先を急ぎますが、勝房は「雨も降るから  
もう一日泊まれ」と袖を引きます。舟木家の系図帳によ  
れば、加藤家から満(後に織部)が勝房のもとに嫁いで  
います。吉彦は叔母の家で、しきりに降る雨もあつて、  
心やすく2泊したのです。11日には天候が回復、能登島  
の向田から山を越えて二穴へ、そして小口瀬戸と呼ぶ海  
の隘路を舟で対岸に渡ります。能登人が京・大阪へ上る  
基本的な経路で、文化的にも近い関係にあったようです。



寛政の旅人：加藤吉彦(かとう・えひこ)。寛政9(1797)年、36歳の  
時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社12代宮司。  
平成の旅人：加藤三千雄(かとう・みちお=写真)。現酒垂神社宮司。  
9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で  
吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

「広報のと」3月号の印刷費は一部当たり22円です。

